

複数性のエコロジー

人間ならざるものの環境哲学

篠原雅武著

へ私はモートンと現実に出会い話す
ことで、人は変われることを知っ
たへモートンは「近代からの脱出」
と言ひ、エコロジカルな時代はすで
に始まっていると言う。人間が、人間
だけで生きていくことのできていた
時代が終わろうとしているへエコロ
ジー思想の刷新で注目を集める思想
家ティモシー・モートン。本書は、モ
ートンの読解と解釈、そして直接の
対話を通して新たな生き方を示す。
現代人の生きる場そのものが「うつ
の空間」と化した病理を問ひ、「私」
が自身の身体において生じている喜
びから、ヒト・モノを含む他なる存
在との結びつき・共存を意識化する
ことを複数性のエコロジーと説く。



B6判／307頁／2600円
以文社